

女子学生の実態とその教育 I

—短大生に試みた学級構造の測定—

古 澤 暁

はじめに

一般的に大学における学級は、単に便宜的に編成された集団であるかもしれないが、しかし、本学では、多くの授業が学級単位でおこなわれ、学級担任制によって生活指導がなされている。この学級集団は、入学時に編成され、卒業時まで継続され、学内での機能単位の下部組織になっている。

学級集団の構成員は相互に力動的、内面的関連でもって、学級集団に対して不可分部的な結合状態にある。この学級集団の構造を明らかにすることによって、学級集団の本質が明確になる。

集団の構造を明らかにするには、集団の構成員相互の関係を記述し、あるいは集団の構造特性を明らかにするための客観的な道具として、モレノの創案による学級、職場などの仲間集団における構成員間の対人感情と態度を基礎にして選択排斥、無関心などの心理的関係を調べるソシオメトリック・テストで求められる。

目的

女子学生の実態を把握し、その教育を考えることを目的としている。この研究では、学生生活指導の資料として、学級構造の測定をすることにある。

方法

1. 調査方法 心理学を受講した短大1年生に対して、第5順位制限法による、次のようなソシオメトリック・テストを実施した。

「授業のさいに、隣の席に座ってほしい友人の氏名を好きな順番に5人 座ってほしくない人の氏名をきらいな順番に5人かきなさい。理由もかきなさい。」

2. 調査対象 本学1年生、国文科3学級（JA, JB, JC）、英文科4学級（EA, EB, EC, ED）387名

3. 調査期日 昭和44年2月

結果と考察

資料の整理と分析は田中の方法によった。

$$CRS = C - R$$

CRS (選択排斥差引得点)

C (被選択) R (被排斥)

$$Isss = \frac{1}{2} \left(\frac{CRS}{N-1} + \frac{mc-mr}{d} \right)$$

Isss (社会測定的地位指数)

mc (相互選択) mr (相互排斥)

N (成員数) d (選択排斥制限数)

資料マトリックスを作り、集団の心理学的構造を示す集団構造マトリックスを作成した。第1図から第7図までである。

1. 全体としての学級集団の傾向

各学級ともに、被選択数の合計が被排斥数の合計よりも多く、親和的傾向がみられる。

2. 集団の中の個人の地位

人気があるもの (Cが多く、CRSの高いもの)

JA (22, 11, 9, 3) JB (57, 5, 50, 27) JC (3, 31, 29, 28, 44) EA (19, 12, 28, 33, 35, 57) EB (62, 35, 55, 34, 45) EC (3, 50, 55, 44, 18, 6) ED (7, 23) のものたちである。

EDの7は目立って人気がある。

孤立しているもの (Cの1つもないもの)

JA (33, 47, 31) JB (53, 24, 59) JC (25, 41, 34, 22) EA (38, 54, 14, 53) EB (26) EC (26, 49, 42) ED (59) のものたちである。EAの29は周辺者集団にいるが、被選択の理由からみて、孤立者である。これら孤立者の中で、被排斥数が目立って多く、きらわれものであるのが、JBの59, JCの22, EAの29, ECの42である。

3. 下位集団の構成

J Aは第1から第6までの6つである。なお、その構成をみると、第1—14名、第2—8名、第3—8名、第4—4名、第5—3名、第6—2名、周辺者—11名、孤立者—4名。

下位集団第2と第3は同水準とされるので、社会測定的階層はIからⅦまで数えられる。

J Bは第1から第9までの9つである。なお、その構成をみると、第1—11名、第2—9名、第3—5名、第4—4名、第5—4名、第6—4名、第7—3名、第8—2名、第9—2名、周辺者—8名、孤立者—3名。

下位集団第4と第5と第6、第8と第9は同水準とされるので、社会測定的階層はIからⅨまで数えられる。

J Cは第1から第9までの9つである。なお、その構成をみると、第1—14名、第2—4名、第3—3名、第4—3名、第5—3名、第6—3名、第7—2名、第8—2名、第9—2名、周辺者—16名、孤立者—4名

下位集団第3と第4と第5と第6、第7と第8と第9は同水準とされるので、社会測定的階層はIからⅥまで数えられる。

E Aは第1から第12までの12こである。なお、その構成をみると、第1—8名、第2—4名、第3—4名、第4—3名、第5—3名、第6—3名、第7—2名、第8—2名、第9—2名、第10—2名、第11—2名、第12—2名、周辺者—15名、孤立者—4名。

下位集団第2と第3、第4と第5と第6、第7と第8と第9と第10と第11と第12は同水準とされるので、社会測定的階層はIからⅦまで数えられる。

E Bは第1から第9までの9つである。なお、その構成をみると、第1—13名、第2—8名、第3—7名、第4—4名、第5—3名、第6—3名、第7—2名、第8—2名、第9—2名、周辺者—12名、孤立者—1名。

下位集団第5と第6、第7と第8と第9は同水準とされるので、社会測定的階層はIからⅧまで数えられる。

E Cは第1から第9までの9つである。なお、その構成をみると、第1—19名、第2—6名、第3—6名、第4—3名、第5—3名、第6—2名、第7—2名、第8—2名、第9—2名、周辺者—9名、孤立者—3名。

下位集団第2と第3, 第4と第5, 第6と第7と第8と第9は同水準とされるので, 社会測定的階層はⅠからⅥまで数えられる。

EDは第1から第9までの9つである。なお, その構成をみると, 第1—15名, 第2—4名, 第3—3名, 第4—2名, 第5—2名, 第6—2名, 第7—2名, 第8—2名, 第9—2名, 周辺者—17名, 孤立者—1名。

下位集団第4と第5と第6と第7と第8と第9は同水準とされるので社会測定的階層はⅠからⅥまで数えられる。

下位集団の構成は少ない人数でつくり, 下位集団の数が多い。周辺者と孤立者が多いということは, 学級集団としてまとまっていないように思われる。

4. 選択排斥の理由

選 択 の 理 由

まじめに勉強されるので学習意欲がわいてくる。

授業中熱心に聞いている雰囲気がいい。

おとなしくて努力家。

態度がまじめである。

必要以上の話をしないから。

授業中では気の合った人同志の方がやりやすいし, わからないところでも遠慮なく聞くことができる。

親切におしえてくれる。

ノートをきれいにしている。

いい助言者である。

自分にはない良い面を持っているので尊敬しているし親しみやすい。

人がらがすきだから。

排 斥 の 理 由

とてもよく勉強するので隣にいるといきがつまりそうな気がする。

勉強に熱心なことはわかるが頭の良さを表面に出しすぎる。

まじめである。

授業中私語が多く人の迷惑になる。うるさい。

授業中先生のおっしゃることが聞きとれないといまなにいったと聞くからノートがとれなくなる。

利己主義で勉強がよくできるといった態度を示す。

そばにいと落ち着かない劣等感を感じる。

尊敬できない。

自分勝手。

いっしょにいて楽しいから。
何事にも信頼性がある。
清潔な感じがする。
感じがよい。
積極的だから。
お姉さんらしくしっかりしている。
親しくなりたいから。
同じ方面からきていて気持がよく通じる。
同窓だから。
面白い。

意地が悪い。
気が強そうだから。
面白いけど話があわない。
責任のある行動をしない。
不潔である。
生理的にうけつけない。
その人とももの見方がちがうから。
服装がいや。
行動なども派手な感じがする。
この人たちの考えにはついていけない。
精神異常だから。
遊ぶ事しか話題がない、つまらない。
おそろしい。
すぐ代返を頼むから。
欠席をするから。
自分の性格に合わない。

同じような理由が、選択にも、排斥にもみられるのは、行動の様式が異なることによるのであろう。相互に反発しあっているということでもあろう。性格によって好き、きらいをいっているところがある。

5. 事 例

J Bの59はきらわれ者である。2年生途中で退学している。

E Aの29はきらわれ者である。担任と親との間で、何回かの面接指導がなされたが2年生途中で退学している。

E Cの42はきらわれ者である。担任と親との間で、何回かの面接指導がなされた。クラブ活動に参加するようになって卒業している。卒業にさいしてつくられたクラブの文集に、もしあるとき先生のすすめがなく、クラブ活動にはいらなかったら、私は

卒業はできなかったかもしれないと書いている。

これらのことから、友人関係のあるなしが学生生活に大きな影響を与えるといえよう。

む す び

学級集団構成員の相互融合によって、周辺者、孤立者をなくし、まとまりのある学級集団をつくることができれば、教育効果をあげることができると考える。

下位集団の構成要因を分析することが残っている。これは次の機会に研究したいと考えている。

参考文献

田中熊次郎 1969年14版 増訂ソシオメトリーの理論と方法 明治図書

